

シェアアトリエ 海の校舎

岡山県笠岡市



発表者



南智之

(NPO法人海の校舎 大島東小 代表理事
・木工家具製作 サザンツリー代表)



藤井俊幸

(岡山県笠岡市 財政課 課長
・元協働のまちづくり課 課長)



藤本進司

(NPO法人海の校舎 大島東小 理事
・革布雑貨製作 SIRUHA代表)

岡山県笠岡市

岡山県笠岡市



人口 : 45,281人 (R5.4.1時点)

世帯数 : 21,982世帯

市の面積 : 136.39km²

(岡山県南西部に位置し、広島県福山市と隣接)

特徴的なもの :

- ・ 生きた化石カブトガニ
- ・ 笠岡諸島
- ・ 笠岡湾干拓
- ・ 笠岡ラーメン



風光明媚な瀬戸内海に浮かぶ笠岡諸島



瀬戸内海国立公園として大小約30の島々を有し、それぞれ独自の文化を持つ
北木島・白石島・真鍋島・六島・高島・大飛島・小飛島の7つの有人島

1,191haの広さを誇る笠岡湾干拓



菜の花、ポピー、ひまわり、コスモスなど四季折々の花を大パノラマで楽しめる人気スポット。笠岡湾干拓は様々な野菜生産、畜産業が営まれる大食料基地。

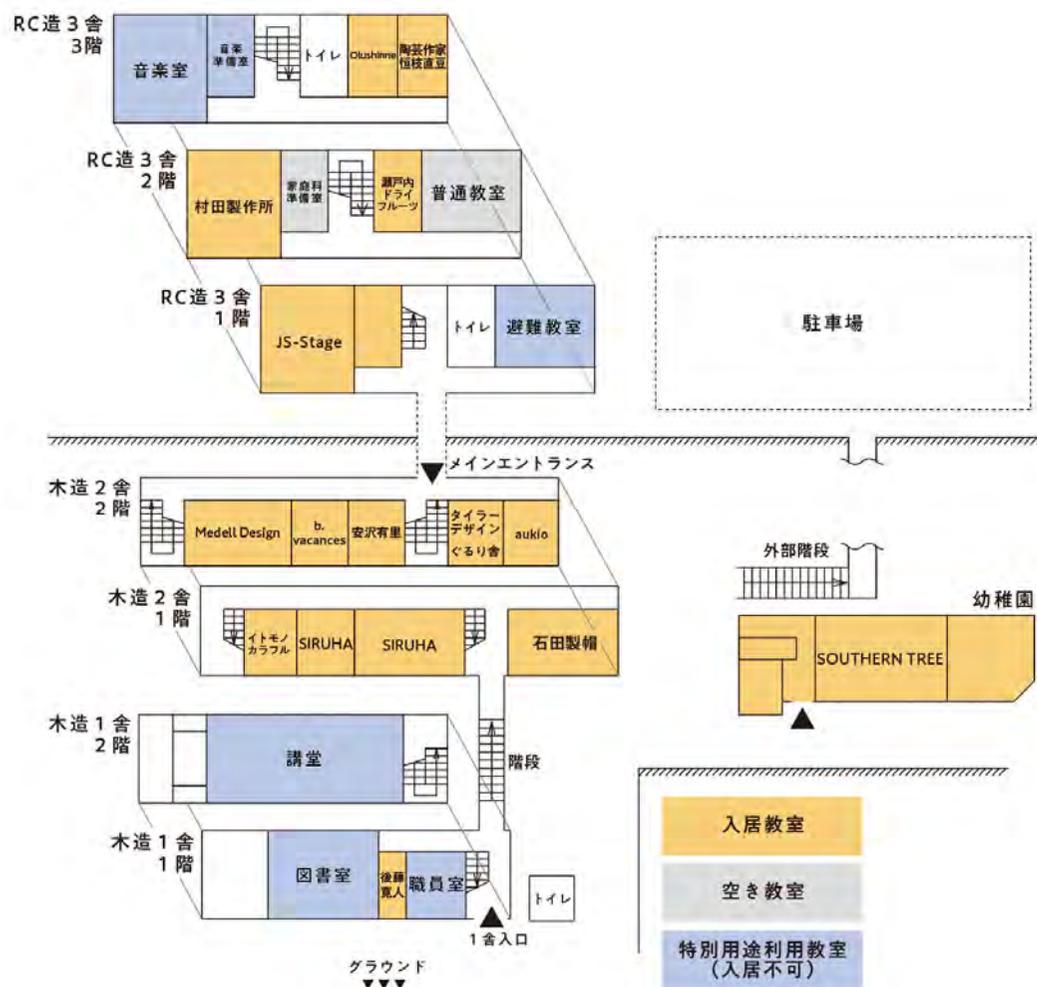
海の校舎の活動概要

海の校舎の概要1



- 木造とRCの廃校を利用したシェアアトリエ
- 目の前には瀬戸内の海が広がる
- 運営者であるNPOが市から賃貸契約
- 運営者自身も入居し各自の仕事を行う

海の校舎の概要2



現在16事業者が
NPOに利用料を支払い入居

海の校舎の概要3



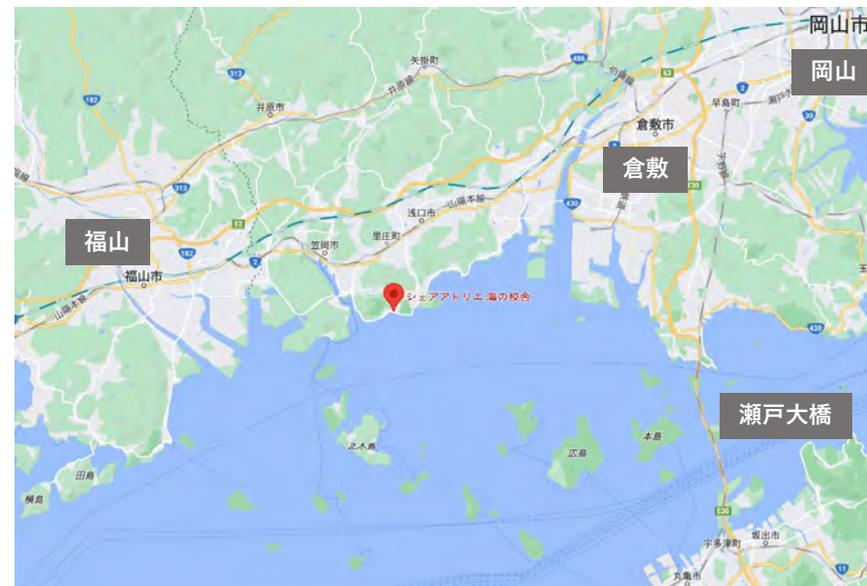
NPOの主な事業

- ・シェアアトリエ事業
- ・クラフトマルシェうみの市 や開放日
(地域交流活性化事業)

第4回うみの市：
4/1（土）、2（日）
来場者数 2,300人
出店者数 66社

活動のきっかけ

活動のきっかけ1_学校の位置



岡山県笠岡市 正頭地区

2018年3月 生徒数の減少から旧大島東小は閉校

活動のきっかけ2_利活用の模索



廃校後、市や地元で利活用の模索



企業等による活用の見込みがなくなる



2018年11月にサザンツリー南氏、SIRUHA藤本氏
から地元住民に工房としての活用を提案



地元の協力のもと、市へクラフト工房の提案

立ちはだかる壁

立ちはだかる壁1_市側の体制



- ・ 廃校利用を担当する部署がない？
- ・ 関係部署間で膠着状態
 - ▶ 協働のまちづくり課が窓口になる
 - ▶ 公有財産利活用検討委員会

立ちはだかる壁2_運営体制



- ・ 誰がどういった形態で管理・運営するのか
 - ▶ 入居事業者、まちづくり協議会役員など地元住民によって構成されたNPOを設立

立ちはだかる壁3_条例による用途の制限

特定用途制限地域内における建築物等の用途の制限に関する条例

田園居住地区であったため、原動機の持ち込みができない。

- ▶ 周辺への影響調査（騒音調査）を行い騒音対策等の資料作成
- ▶ 地元説明会
- ▶ 特例許可申請（市⇒市）
- ▶ 公聴会、建築審査会の開催
- ▶ 特例許可



立ちはだかる壁4_用途変更による改修

- 建築基準法、消防法
- 浄化槽
 - ▶ やりたいことは沢山あるが無理をせずできることから始める
 - ▶ 貸付にあたっての必要な改修は市で実施（約770万円、民地購入含むと約2,200万円）



立ちはだかる壁5_改修費用など資金面

- 市としては事業のための改修費用は出せないというスタンス
 - ▶ 大家として建物の根幹にかかる部分の修繕（雨漏り、シロアリ、樋）
- 基本的に改修は自らやっているのので改修費用は抑えることができる



立ちはだかる壁6_施設の管理運営

- 所有権譲渡か賃貸、それとも指定管理？
- 5年間の有償賃貸を提案し合意



番外_感じる強み



様々な能力を持つ事業者が結集し、
各自ができることをやる



ハイクオリティな
DIYが可能に

木工職人、老舗の有名帽子メーカー、
グラフィックデザイナー、一級建築士、
フォトグラファー、地域おこし協力隊

👉市長も議会も味方につけるその魅力

これまでの取組・効果

これまでの取組・効果1_沿革

- 2018年 3月 大島東小学校閉校
- 11月 南と藤本が大島まちづくり協議会と地域の方への活用方法を提案
- 2019年 5月 協働のまちづくり課が市の窓口となる
- 7月 笠岡市公有財産利活用検討委員会で検討開始
- 2020年 1月 NPO法人設立に向けたプロジェクトチーム発足
- 5月 NPO法人設立総会
- 6月 地元説明会
- 7月 市長とNPO理事との協議で最終方針決定
特定用途制限地域内における建築物等の用途の制限に関する特例許可申請
建築審査会開催，特例許可
- 9月 NPO法人海の校舎大島東小設立
- 2021年3月 消防設備整備，シロアリ被害，雨漏り箇所，遊具撤去等完了
- 4月 市からNPO法人に有償貸付開始
NPO法人による開業準備開始
- 5月 NPO理事メンバー入居
- 7月 シェアアトリエ海の校舎オープン

これまでの取組・効果1_沿革_{1/3}

2018年3月 大島東小学校閉校

11月 南と藤本が大島まちづくり協議会と地域の方への活用方法を提案

2019年5月 協働のまちづくり課が市の窓口となる

7月 笠岡市公有財産利活用検討委員会で検討開始



これまでの取組・効果1_沿革_{2/3}

2020年1月 NPO法人設立に向けたプロジェクトチーム発足

5月 NPO法人設立総会

6月 地元説明会

7月 市長とNPO理事との協議で最終方針決定

特定用途制限地域内における建築物等の用途の制限に関する特例許可申請

建築審査会開催、特例許可

9月 NPO法人海の校舎大島東小設立



これまでの取組・効果1_沿革^{3/3}

2021年3月 消防設備整備、シロアリ被害、雨漏り箇所、遊具撤去等完了

4月 市からNPO法人に有償貸付開始

NPO法人による開業準備開始

5月 NPO理事メンバー入居

7月 シェアアトリエ海の校舎オープン



これまでの取組・効果2_現在の入居者



入居タイムライン

▶ 想定以上のスピードで入居者増。現在 **16事業者**

これまでの取組・効果3_うみの市

- 目的 多くの方に海の校舎を知ってもらい、校舎の雰囲気やものづくりに接してもらうために開催
- 規模 毎回2,000人以上の来客。第4回目は66出店者が参加
- 効果 来客者のSNSを通じて海の校舎が多方面に発信
入居者と外部の作家が交流してお互いに刺激を受け合う
イベントがきっかけで新規入居者が増える
レンタルスペース利用促進を計る



これまでの取組・効果4_月に一度の開放日

背景 オープン当初は常時一般客の受け入れをしていたが、作業に集中できなくなり、受け入れを月に1回に集約しイベント化

目的 一般客との交流の場の創出。商品の販売やWSの開催
海の校舎の雰囲気味わって頂く

規模 月1回、来客数50人程度/回

効果 外部の方に入居事業者の商品や仕事の魅力を伝えられる



これまでの取組・効果5_百貨店でのPOP UP開催

背景 百貨店とつながりのあるNPO副代表理事の斡旋もあり、地元岡山県や広島県、都心では東京新宿伊勢丹でも開催。海の校舎のグループとして出店

効果 入居者の販売促進や、新しいステージでの販売経験による刺激、普段と違う客層へのアプローチができる



これまでの取組・効果6_現れる効果

NPO海の校舎にとって

- ▶ 注目されることで自分の事業にプラス
- ▶ 入居者同士のコラボで新たな活動ができる。仕事で協力できる
- ▶ 色々な人が集まってくることで新しい繋がりが生まれる

市にとって

- ▶ 地域の魅力発信
- ▶ 人気エリアになりつつある（新たな店、家、移住者）
- ▶ 行政主導では作り出せないブランディング力による恩恵
- ▶ 公共施設等総合管理計画にも合致した、モデルケース



これまでの取組・効果7_今後の展望と課題

NPO海の校舎にとって

課題 ▶ 施設の老朽化、理事の負担増、
人件費の確保、電気容量、浄化槽

展望 ▶ レンタルスペース、
コワーキングスペース、雇用の創出



市にとって

課題 ▶ 人口減少、若者の流出、
老朽化する公共施設や急速に増える廃校・廃園への対応

展望 ▶ 笠岡の魅力発信、笠岡を面白いまちに、子どもたちに新たな可能性を
施設削減と並行した公共施設、廃校等の利活用

おわりに



